



### 「せきらんうんの いっしょう」

荒木健太郎 作／小沢かな 絵  
ジャムハウス、2018年7月  
24頁、1,500円（税別）  
ISBN 978-4-906768-45-5

### 「ろっかのきせつ」

荒木健太郎 作／小沢かな 絵  
ジャムハウス、2018年11月  
32頁、1,500円（税別）  
ISBN 978-4-906768-44-8

子どもは社会を映す鏡、と言われるが「令和時代」を迎えた子どもたちは、どのように育ってゆくのであろうか。もっとも、自然と触れ合ったり戸外で遊ぶ機会が減少していることにより、幼児が自ら進んで環境にかかわることを楽しんだり、自分自身の力で物事を発見したりする力が伸びていないということは、平成ひと桁の頃より指摘されてきた。しかし、残念ながら今の子どもを取り巻く自然環境は、平成の当時よりもさらに貧しいものになっている。特に都市部の急激な保育需要の増加に対応して作られた保育園は、雑居ビルの中や電車の高架下にあることも珍しくはなく、東京都の認証保育所では、園庭が「ない」保育所が総数の9割を超えている。さらにテレビやスマホなどさまざまな刺激があふれ、子どもたちが大空の下で遊ぶ環境も機会も少なくなっているのが現状だ。

そんな中、科学絵本という存在は、子どもたちが自然環境への関心を高めるツールとして、大きな期待を寄せられている。今回紹介する「せきらんうんのいっしょう」と「ろっかのきせつ」の2冊の作者は、雲研究者であり気象庁気象研究所の研究官である荒木健太郎氏、絵の担当は上級滑空機（グライダー）のライセンスも持つイラストレーター小沢かな氏と、空をよく知る2人だ。そしてこの2冊が普通の絵本と少し違うのは、気象現象を題材にしたものの中でも、未就学児に読み聞かせやすい数少ない存在であるということだ。その要諦の一つは、話の中心となる「主人公」の設定にある。

「せきらんうんのいっしょう」の主人公は「空気唄」だ。「だんきくん」が「れいきくん」の励ましを受けて積雲となり、雄大積雲へ成長。さらに積乱雲へと発

達し、圏界面に達してやがて衰弱してゆく、そして……というまさに積乱雲の一生を、さまざまな人間模様ならぬ雲模様にたとえて、軽妙に描いている。雲の中で起こっている上昇気流と下降気流などを人間が持つような「くうきのきもち」として描くことによって、感覚的に理解しやすいように表現されている点も新しい試みだ。

一方、「ろっかのきせつ」の主人公は、「ろっか」という雪の女の子である。雪の結晶の友達、「はり」や「ほうだん」君などと楽しい会話を交わしながら、地上に落ちてくる様子を描く物語だ。多岐にわたる種類の雪の結晶に関しても、たくさんの友だちとして可愛く丁寧に描かれ、一つ一つ興味深く見てしまう。そしていづれも「おはなし」がコンパクトにまとまっていることで、子どもも飽きずに楽しみながらストーリーを追える展開になっている。このような工夫の積み重ねで、子どもたちがふと空を見上げた時に、無理なくさまざまな思いを巡らせられるようなものに仕上がっている。

他にも、これら2冊の本には様々な仕掛けがしてある。ページいっぱいに広がる個性豊かな仲間たちの短いつぶやきは、さまざまな立場を代弁することで、刻々と変わってゆく気象現象の特徴をよく表している。一方で、主人公が発するセリフの中には、作者の子どもたちに対する想いや、中谷宇吉郎先生の「雪は天からの手紙である」をオマージュしたメッセージなど、大人の心にも通じる人生のエッセンスをも含んでいるのである。子どもは素直である。同じ絵本でも単なるイラストと事実の羅列だけでは、興味を持つのは難しい。作者は上手に子ども視線にたち、普段見ている空を一つのスクリーンにし、物語として紡いでいるのだ。「この絵本は、研究に行き詰まっていたときの落書きから生まれました」という巻末のエピソードも、この本が研究者としてではなく、一人の空好き、空想好きの少年が書いているものと思えば、納得が行く。

絵本というものは、小さい子どもにとって大きな存在のメディアである。親は子どもがまだ文字も読めない頃から、絵本を読み聞かせる。指をさして「ワンワン」「ニャーニャ」を教え、子どもが自分でその言葉を発しようものなら、天地がひっくり返ったように喜ぶ。さらには大きくなるにつれて増えてゆく語彙や知識が「ああ、あの絵本の中にあつたな」と思うこともしばしば経験する。そういう意味でも絵本というもの

は、子どもと外の社会を繋ぐ大切な扉でもあり、一緒に成長してゆく相棒なのである。

—成長してもご安心を。この2冊には、巻末にしっかりと、積乱雲や雪の結晶に関する詳しい解説も書かれている。特に雪の結晶は100種類以上の図解付き、漢字にもルビが振ってあるので、興味を持てば小

学1年生でも自分で読むことができる。その結果、本書は小さい子どもはもちろん、大人まで楽しめる内容となっており、万人が空に興味を持つきっかけとしても、おすすめできる2冊に仕上がっている。

(保育士・気象予報士・ミュージシャン 奥村まさよし)